

ふれあい

大代地区コミュニティ推進協議会

事務局：大代地区公民館 ☎364-8442

謹賀新年

大代地区コミュニティ

推進協議会

会長 佐藤 甚六

明けましておめでとうございます。

皆様には、ご家族共々お健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年中は、当協議会の事業運営に對しまして格別のご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

高い確率で発生が予想される宮城県沖地震。その自然災害に備え、昨年実施された大代地区の地域防災活動は時機を得た成果でした。

今年も、災害のない年を祈りながら、大代地区の皆様方とコミュニケーションを図り、行政が推進している「循環型」社会の形成の一助として、事業を推進して参りますので、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

コミュニティ推進協議会役員一同

会長 佐藤 甚六

副会長 渡辺 正平

副会長 白浜 宣子

広報部長 渡辺 正平

環境美化部長 荒木 慶蔵

体育部長 熱海 五郎

コミュニティ推進部長

小野 菊郎

監事 佐藤 良一

監事 小野 精子

ご祝儀 お見舞いは

三千元を限度にし

お返し物は

はしないようにお互い気を配りましょう

あいさつは心のふれあい

出会った人と

あいさつしましょう

大代防犯協会より

会長 伊藤 一郎

新年明けましておめでとうございます。

地域の皆様方には、ご家族おそろいで輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は、いじめによる児童・生徒の自殺や親からの虐待で命を落とすといったケースが、著しく表面化した一年であった気がします。

子供は親の宝であり、地域の宝でもあります。家族の愛情と地域で見守る温かさで包んであげることが、悲劇を起さない環境作りになるのではないのでしょうか。

我々防犯協会としても、微力ですが、地域の皆様と手を携えて犯罪のない、また、起こりにくい環境作りの一役として活動してまいりたいです。

今年一年が皆様にとって素晴らしい年でありますようにご祈念申し上げます。念頭のごあいさつといたします。

大代地区子ども会

育成連合会より

会長 櫻井 啓一郎

新年あけましておめでとうございます。

昨年は「夏休み体験キャンプ」「秋っ子まつり」に参加協力いただきました。今年も三月の「公民館まつり」でお会いしましょう。

私の気力

大代中 鈴木 則子

「備えあれば憂いなし」年齢的に無理と信じながら英会話を勉強しましたが、「おぼえた」会話ができた。だが、時間が経つと忘れる。この繰り返し。

ただ一つ私の胸にジーンと楽しい言葉。「ばあちゃんの話も上手で発音もきれいだよ」優しい孫との対話、いつまでつづくやら。高校二年生は進学

学予定。考えると、一人、二人、三人の孫達との別離が私の胸の灯りが消えそうである。「コンプレックス」に悩む。自分だけではないと思うとおかしい。人生は苦しみを味わいながら人々とつながっている。

年ごとに強く思うのは、知ったかぶりよりもむしろ知らない方がいいと実感させられる。学問や知識や技術はどんなものであれ、すべての老後を楽しむ

く変化に満ちて生きるだけ役立つ。孤独からまぬがれる方法もまた自ら努力なしには解決しないのである。「どんなことがあるとも」私らしく「どんなことが起こっても負けるもんか」自身の重荷は私自身のものであり、そしてその荷は充分に、それに耐える強い肩があるからこそ負わされたのだ。これまでふりかえった最悪のことにも耐えられる程強い肩である。

庭石に打ち水のため、水をかけようと右手にジョウロを、最悪、ころんとしまった。右肩の激痛が二ヶ月程つき、苦しい「辛い涙」私なりにリハビリを始める。朝日を拝み、快復をねがう、三ヶ月目になり肩の痛みは柔らぎ自力で耐えたことにおどろくばかり。忍耐、努力をモットーとして生きてる老女である

心に太陽をもて 唇に歌をもて

ころばぬが さきの杖

※先月号で協力をお願いした松の剪定作業ですが、大代4丁目の鈴木さんが快く引き受けてくださり十二月一日に剪定作業を行いました。



私のシベリヤ(四十七)

大代南 後藤 清一

初春のお慶びを申し上げ、皆様の多幸を祈って乾杯を。

さて、私の人生で最も思い出多いシベリヤ慰霊墓参り、関係皆さんの配慮を頂きながら今年六度目の訪問も無事済ませた。八月下旬から九月上旬は最も暑い時期だがこちらはベストシーズンなのだ。街路樹は黄ばみ夏の花は真っ赤に燃え娘達はノースリーブ姿、夏と秋が同居していた。平成十八年下旬の印象的な風景これ等も眼の中に入れて忘れ得ぬ思い出したい。

途中供えの花を買い求め墓地を目指した。遠くに霞む山波は低く垂れこめた雲に隠れてほとんど見えなかった。以前草原だったところが開発され道路沿いにはスタンド、住宅等点在する。驚く程様変わりしている。やがてアムール川が見え雄大な流れに勢いがあつた。

ウルガル沿線各地の墓地を訪ね皆で除草し花を手向け並んで手を合わせる。私は眠る友に何か語りかけようと思つたが言葉が出てこなかった。

私はこれまで年次を重ねて訪問して参りました。何時も哀しみ多く辛い事ばかりの旅でしたがどれも人生の足跡を刻んだ忘れ難い事ばかりでした。友の埋葬地を訪ね探し求めたシベリヤの山河、風雨に曝された白骨を涙で拾い集めた奥深い湿地の草原、朽ちて残骸

を曝す収容所、歴史の流れの中でシベリヤ生活を回顧して書き続けて参りました。忘れ難く悲しみだけ多く残したシベリヤ抑留とは一体何だったのか、今もつてはつきりと説明する事はできない。

去る十月十五日、シベリヤで物故された同胞の合同慰霊祭が九段会館大ホールで全抑協主催、厚生ロシヤ領事館後援で開催された。父を戦後シベリヤで失い異国に眠る父の墓参りから帰った歌手松島トモ子もこの催しに共鳴し会場に駆けつけた。彼女は父の面影を集まった生還者、同じ遺族の境遇に思いを寄せこの日最後の熱唱は多くの人々の心を捕らえついに涙の大合唱となった。唄は抑留者の間で愛唱された懐かしの曲「シベリヤ夜曲」である。涙の合唱は会場を圧倒した。ああシベリヤの七つ星”この唄の詞、曲の作者は不明とのこと。シベリヤ抑留で七万を越える死は平時の犠牲者としては余りにも多すぎる。しかも、物故された遺骨が今もシベリヤの山河に野晒しにされ名前も解らないのである。岸壁の母異国の丘などは抑留の哀愁を歌い上げたもので米英からの帰還者にはない悲痛な心情を表していると思う。

ソ連国はすべての邦人が帰国すれば墓地の存在などそのまま放置されるだろう。収容所に死者がでるとそんな中で何かと我々に手助けをし同情の涙を流してくれるのは現地の住民であった。

我々はその環境の中でもできるだけの事はしてきたつもりなんです。日本の抑留者は厳寒の中或いは炎天下でもよく働いた。この誇りは自慢しても良いと思います。この同胞の労働の汗は今後の日口友好の掛け橋として行くことを信じたい。

続く

小倉百人一首入門(その二)

大代西 藤田 遊子

『わが袖は 潮干にみえぬ 沖の石の 人こそしらね』

かわくまもなし』

二条院 讚岐

「概訳」わたしの着物の袖は、引き潮のときにも見えることのない

沖の石のように、あの人は気づかないけれど、悲しみの涙でかわくまもありません。

「主旨」人知れぬ片恋の嘆き。

「場所」八幡二丁目の末の松山付近にある歌枕(池の石)

「要点」「潮干にみえぬ沖の石の」は、人知れず悲しみの涙にくれる様態を比喻し、当時における新奇、新鮮な表現であった。

「作者」一条天皇の妻。父瀬政の素質をうけ、一流の女流歌人。「沖の石の讚岐」とあだなされた。生没年不明。

「参考」二条院讚岐が多賀城を訪れたという記録は見えない。

ふれあい俳句

大代西 藤田 遊子

初詣京都友禅京言葉

寝たきりの祖母に一匙七日粥

大代西 松浦 富男

冬ざれの月を背負うて帰り来ぬ

日めくりの瘦せ細りたる十二月

耐え生きる気概哀れな寒立馬

笠神西 本郷 勝子

冬蛍夕焼空にキラキラと

冬来ると五臓六腑に染る酒

銀色に此の世を染めて眠る山

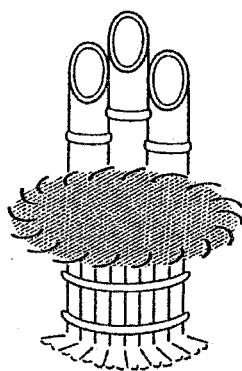
ふれあい川柳

大代西 藤田 遊子

しつけ糸そのままつけて初詣

天の声にチヨコ一本削られけり

飲み過ぎて初詣を忘れけり



『柏木神社から』

どんと祭のお知らせ』

■日時／一月十四日(日)

■時間／午後五時から六時三十分

■松飾りは当日の朝八時から受付いたします。

※ビニール・プラスチック等の

化学製品は全て取り除いて納めて下さい。